

年間を通じた、宇宙にかかわる表現活動の実践

(図画工作科・第1学年対象)

三重大学教育学部附属小学校 教諭 猪 泰介

I はじめに

今年度、小学1年生を対象に、宇宙にかかわる図画工作科の実践を行った。

1年生の発達段階に於いて、環境という概念は身の回りの動植物が中心となる。それらの内容は、主に生活科の学習内で様々な観察や活動を通して学んだり身につけたりしていく。本報告では、その身の回りの動植物から一歩抜け出し、宇宙に目を向けさせる。しかし、宇宙の知識や星の観測を中心に行うわけではなく、宇宙をイメージしたり、宇宙の星や宇宙人を自由に思い描きながら、宇宙を身近に感じさせたり、今後の学習の素地作りとさせたい。本報告では、それらの実践を紹介する。(図表番号は略し、活動紹介写真とする。)

II-1 実践1「うちゅうではっけん!ぺったんぼし!」の概要

(1) 題材について

本題材は、絵の具と様々な材料を用いてスタンプングを試すことで偶然表れた形や色、さらにそれらの組み合わせで生まれた模様や色彩から、見立てたり発想したりして「宇宙のどこかにあるぺったんぼしを表す」活動である。

表す際は、ぺったんぼしの世界を表しても構わないし、ぺったんぼしの環境や生き物の様子を表しても構わないとした。多様な材料を用いてスタンプングし、その複雑で不思議な形や色や模様や色彩が、空



想の異星の世界の自然や生き物、環境や風景となって活かされると考えた。

(2) 学習計画 (全7時間)

1. いろいろな材料を用いて、スタンプングを試す。・・・2時間
2. はっけんうちゅうカードに表す。・・・1時間
3. 思いを絵に表す。・・・3時間
4. 作品を仲間と見せ合い、色や形のおもしろさや、工夫したところを感じ取る。・・・1時間

(3) 授業の実際

第1・2時では、スタンプングの技法を提示し、造形遊びを行った。子どもは、それぞれ自分の好きな材料を選び、思い思いに色を押しつけていた。スタンプングすることで思いもよらない形が表れたときや、何かを思いついたとき、周りの仲間と声をかけて見合う様子や、形を組み合わせさせて具体物を描く様子も見られた。

第3時では、これまでの材料を使い、自分が気づいたことや見つけたことをはっけんうちゅうカードに表す活動を行わせた。子どもは、様々な材料を用いて自分なりに形や模様を見立てたり名前をつけたりして楽しんでいた。最後にカード紹介を行い、どんな形や模様が生まれたのかを共有した。

第4~6時では、自分の思い描いたぺったんぼしのイメージや、スタンプングで生まれた形や色や模様や色彩から見立てたり思い付いたりしたことをもとにして、絵に表す活動とした。

第7時では、作品を鑑賞する。絵に表した思



いを伝え合ったり、想像し合ったりするなどして、互いの作品の良さについて感じ合う時間とさせた。

II-2 実践2「手ぶくろせい人がやってきた！」の概要

(1) 題材について

本題材は、思い描いた宇宙人のイメージをもとに、自他との交信や進化をくり返す中で「手ぶくろせい人を表す」活動である。(本題材では、宇宙のイメージを大切に進めるため、交流を「交信」、装飾や加工を施すことを「進化」という言葉に代えた)。

製作では、ビニル手袋に装飾や加工を施し、手ぶくろせい人を表した。手ぶくろせい人の住んでいるところや食べている物といった普段の生活や環境を思い描かせながら製作に取り組ませた。そうすることで交信や進化の内容についても具体的に、表現が豊かになると考えた。



(2) 学習計画 (全7時間)

1. 手遊びをしよう。手が生き物に見えてきた!.....1時間
2. 手ぶくろせい人をつくろう。.....1時間
3. 手ぶくろせい人を進化させよう。...4時間
4. 手ぶくろせい人になりきって遊ぼう 1時間

(3) 授業の実際

第1時では、手遊びや見立て遊びといった造形遊びを行い、手の形や動かし方で自身の手や腕がさまざまなものに見立てられることを実感させるとともに、そのおもしろさや多様さを味わわせ、発



想や製作の土台とした。

第2時では、宇宙人カードをかかせ、手ぶくろせい人の製作に取りかかった。

第3~6時は、手ぶくろせい人の装飾や加工を行った。第2時にかいた宇宙人カードにさらにかき加えたものをもとにして、装飾や加工を行った。第4時以降では、製作途中に交信タイムを設け、仲間の手ぶくろせい人と交信をさせた。交信タイムでは、自分の手ぶくろせい人の名前や特徴や進化したことを自己紹介する姿や、相手の手ぶくろせい人の模様や装飾について質問する姿が見られた。



第7時では、完成した手ぶくろせい人を手にはめて、全員で校舎を探検する活動を行った。



II-3 実践3「1Cのうちゅう」の概要

(1) 題材について

大きな一枚の画用紙(2.4m×8m)に、自分が思い描いた「宇宙を表す」活動である。一人一枚の区切りを無くし、学級全体で大きな1枚の宇宙の絵を仕上げた。描画材は紙巻きされていないコンテを用い、絵の上を歩き回りながら自由に絵を表す場とした。



(2) 学習計画 (全2時間)

1. 1Cの宇宙を自由にかこう。... 1時間
2. 仲間と一緒に1Cの宇宙をかこう 1時間

(3) 授業の実際

第1時では、自分の思いつく宇宙をまずは言葉で発表し、宇宙のイメージが広がるよう学級で共有した後に、自由に宇宙の絵を描き表した。

第2時では、仲間の描いた宇宙を見て、それに合わせたり付け加えたりしながら宇宙の絵を描き進め仕上げを行った。



窓となる透明半球を接着したりしながら意欲的に製作していた。

第6時では、製作した宇宙船を図工室後方の展示場所(黒いテープに付けられるようになってい)に飾り鑑賞した。鑑賞の際は、テープを上引き上げ、宇宙船が上昇する仕掛けを施した。



II-4 実践4「うちゅうへしゅっぱつ!」の概要

(1) 題材について

本題材は、丸めた紙を用いて、仲間と通信やアップグレードを繰り返しながら「自分が乗ってみたい宇宙船を表す」活動である。



(2) 学習計画(全7時間)

1. 紙を丸めよう!何に見えてくるかな?.....2時間
2. 宇宙船をつくろう!丸めた紙が材料だ!.....2時間
3. 宇宙船をアップグレードさせよう。・2時間
4. みんなで宇宙旅行!.....1時間

(3) 授業の実際

第1・2時では、丸めた紙で造形遊びを行い、自由にかかわらせた。子どもは丸めた紙をつなげたり並べたりしながら、意図したり偶然生まれたりする形や色の組み合わせを楽しんでいた。



第3~5時では自分が乗ってみたい宇宙船のイメージを図工カードに表し、宇宙船の製作に取りかかった。子どもは図工カードに思いをかき表し、丸めた紙をつなげたり装飾を施したり

II-5 その他の取り組み

○鈴鹿市文化会館のプラネタリウムに見学した。

プラネタリウムでは、その時期の星座の説明とその星座にまつわる寓話を紹介された。また、キャラクターが宇宙を旅し、様々な星を巡るアニメを鑑賞した。

○本校理科教員による、宇宙にかかわる特別授業を受けた。

授業では、1年生向けにわかりやすい宇宙の話や星、星座等の話をしてもらった。授業後も、子どもたちから、その授業の話をしている姿が多く見られた。

III まとめ

年間を通して、宇宙とかかわる活動を続けた。

科学的根拠の無い空想の世界を楽しむ場面もあれば、科学的知識に則った専門家の話を楽しむ場面も見られた。1年生の発達段階で、どこまでを学びとするかは難しい所だが、子どもたちの中に、自分の宇宙の概念が生まれたのではないだろうか考える。実践3「1Cのうちゅう」では、自分の思いをダイナミックに表すことができたのはその現れではないだろうか。

これらの実践が、子どもたちの素地となり、今後の学習に活かされることを期待する。